

# 天王山周辺森林整備構想

2005年10月

天王山周辺森林整備推進協議会

## 1 天王山周辺森林について

### 1-1 天王山周辺森林の特徴

- ・京都府・大阪府にまたがる大都市圏の生活環境を形成するとともに、スギ・ヒノキの造林や筍の生産など幅広い利用が行われています。
- ・名神高速道路や新幹線などが集中する交通の要衝を災害から守り、水源地として質の高い豊かな水を提供しています。
- ・都市近郊の森林レクリエーション空間として、年間40万人を超えると言われるほどの多くの散策者や入り込み利用者が訪れます。
- ・国内有数の歴史上の要所として、多様で深い歴史的・文化的価値を有する地域であり、多くの史跡や名勝などが残されています。



天王山周辺の遠望

### 1-2 森林整備の必要性

天王山周辺森林は、防災や水源かん養、景観等の面において社会的に非常に重要であるにもかかわらず、近年、森林が荒廃し植生の悪化が進んでいます。その背景には、以下の原因が考えられます。

- ・社会情勢や生活様式の変化などにより、放置された森林や竹林が増加
- ・「松枯れ」の急激な進行

これらが、天王山周辺の重要な森林植生に、次のような影響を及ぼしています。



林の中の現状

### 森林の荒廃と機能低下

一斉造林地や、人為的影響が大きい2次林（里山林）が放置されたような箇所では、急激な松枯れも影響して、荒廃が進んでいます。

もともとは森林植生が生育していた部分にまで竹が拡大して多様な郷土樹種が減少しており、今後も放置すれば、本来の森林植生が有している水源のかん養や災害の防止などの多様な機能や豊かな生態系が失われていく恐れがあります。



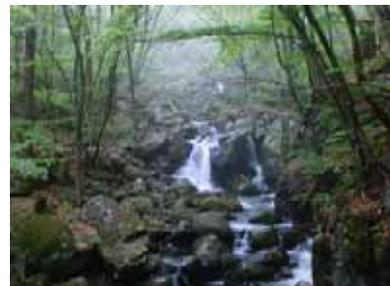
### 「望ましい植生」の消失

活性度や生産性が高く景観的にも美しい竹林や、日本の古里をイメージさせるいわゆる「里山」の植生が持つ良好な景観の形成や生物多様性の確保などの幅広い高度な機能は、人の手による適正な「手入れ」（森林整備）が無ければ低下し失われてしまいます。森林や竹林が急激に放置されはじめたことで、このような「望ましい植生」が減少しています。



### 1-3 森林整備の目的

歴史と文化が蓄積された景勝地であり、かつ、都市環境を保全するうえで重要な位置を占める天王山周辺森林を、所有者・地域住民・企業・NPO 団体・行政等関係者が府境界を越えて連携して整備することにより、水源の涵養・災害の防止・景観の形成・生物多様性の確保・文化財の保護・森林レクリエーションや生涯学習の場の提供・ヒートアイランド現象や地球温暖化の緩和などの多様な機能を高度に発揮させ、美しく望ましい環境の創造に貢献することを目的とします。



(写真はイメージです)

### 1-4 これまでの経過

学識者・地域住民代表・所有者代表・企業・NPO 団体・行政等による協議会を設置して討議を重ね、現地検討会や、シンポジウムなどを行って幅広い意見や情報の取りまとめに努めました。この間、実務担当者が集まったワーキンググループによる調整を何度も行い、得られた意見や情報を、検討し参考にしつつ整備構想として取りまとめました。

## 2 森林整備構想

### 2-1 森林整備の目標

#### 「豊かな水源の森」と「歴史と文化の里山林」の創造

水源のかん養をはじめとする森林の公益的な機能を高度に発揮させるとともに歴史や文化を感じ取れる美しい里山景観を創造します。



#### (1) タイプ別森林整備の目標

- 1) 荒れた竹林は・・・手入れをして、**竹の美林**に
- 2) 竹の侵入した森林は・・・竹を抑制し郷土の木を育て、**豊かな自然の森**に
- 3) 雑木林では・・・林内を整理し、多様な樹種の生育を促進
- 4) 育成されている森林では・・・適正な保育管理を推進

#### (2) 環境教育の場の創出

林内に、広場や観察施設などを設け、案内板や説明板、標識、モデル林などを整備するとともに、教育関係機関と協力し、次世代教育の場の創出を図ります。また、「自然観察エリア」・「自然とのふれあいエリア」を設けて、特色のある植生を保全・育成します。

歩道や観光資源の近辺では、カエデ、サクラ類、クスノキ、ヤマモモ、クリ、カキなどの景観木や花木、鳥の餌木となる実のなる木などの樹種を育成して、楽しく景観の良い森をめざします。また、シンポジウムやイベントなどを通じて、広く森林の整備や維持管理の必要性を訴え府民や企業の幅広い参加を促します。



#### (3) 基盤整備の実施

森林整備の実行を可能にし、木材・竹材などの有効活用を進め、長期的に森林の維持管理を行うため、作業道、作業歩道、作業施設などを整備します。また、観光資源としての価値を高めるために、遊歩道や休憩施設などを整備します。



(写真は、すべてイメージです)

#### (4) 対象区域

京都府の大山崎町と、大阪府の島本町との、2府2町にまたがる地域で、中央付近に位置する天王山の山頂と、その周辺一帯の森林約250haを対象区域とします。



#### (5) 目標年次

本構想に基づく森林整備は、関係者協力のもと10年後の2015年を目標として推進します。なお、永続的な維持管理を図るため、進捗状況や周辺環境の変化等により適宜見直しを行います。

## 2-2 森林整備の具体例

整備構想に賛同いただける所有者と協働して、次のような森林整備を実施します。

目標とする森	選 定 基 準	具体的な整備目標	整 備 内 容
美しい竹林	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的に、林相転換よりも、竹林として維持するほうが望ましい</li> <li>・現状が竹ばかりで、広葉樹など他の植生が、ほとんど無い</li> <li>・歩道が整備されていたり、市街地に近いなど、管理しやすい</li> <li>・実際に竹林としての管理が行われているか、行われていた</li> </ul> <p>…などの条件の区域であって、今後、望ましい姿の竹林として維持管理施業を継続することが可能とみられる区域</p>	<p>竹稈が概ね 2000 本/ha 程度以下で維持され、林内や周辺部についても管理施業がいきとどいている竹の美林</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竹稈が 1500～2000 本/ha 程度となるよう管理する</li> <li>・次代の稈として残す筍(竹稈)以外は、すべて収穫するか除去する</li> <li>・管理している範囲の外(周辺)に生えた筍や竹笹および竹稈についても、すべて伐採除去する</li> </ul>
豊かな自然の森 (里山林)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人の出入りが活発で、里山文化の継承に適している</li> <li>・現状が、放置され荒廃した竹林や藪状の雑木林であり、望ましい植生ではない</li> <li>・市街地に近接し、容易に出入りできる</li> <li>・古くから里山として管理が行われていたと推測される</li> </ul> <p>…などの条件の区域であって、今後、望ましい里山林として維持管理施業を継続することが可能とみられる区域</p>	<p>樹高 8m 以上の上層木が概ね 500～1000 本/ha 程度で、林内は定期的な下刈りにより丈の低い植生で維持され入り込みが可能な状態を保っている明るい林</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竹や不要な灌木等は除伐し、コナラ、クヌギ、アハマキ、サクラ類、カデ類など落葉広葉樹の高木で里山林としてふさわしい樹種を選んで、500～1000 本/ha 程度となるように適宜残す</li> <li>・コナラ、クヌギを主体としてサクラ類やクリ、アハマキ、ヤマモモ、カデ類などを混生させ植栽する</li> <li>・特に史跡や名勝の周辺では、花木や景観木を植栽する</li> <li>・野生の草花が良好に開花しやすい林内照度を維持し、軽装備でも林内の散策や探勝ができるように、除間伐や下刈りなどを定期的に継続する。このような選択的伐下刈りについては、「柴草型」の林床管理を目安に望ましい林内空間の創出・維持を図る</li> </ul>
豊かな自然の森 (常緑樹林)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人の出入りが比較的少なく、林内への入りこみが求められない</li> <li>・主要な史跡や観光地から比較的遠く、景観面での重要度は低い</li> <li>・もともとは照葉樹が主体の林であったと推測され、今も照葉樹が見られる</li> </ul> <p>…などの条件であって、自然林の再生が可能と考えられる区域</p>	<p>潜在自然植生に近い、自然度の高い植生</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・竹や、優先しすぎている灌木は選択的に除伐し、シラカン、アラカン、ヤマモモ、コジイ、ヤブツバキ、モチノキ、エノキ、ムクノキ、モミ、ツガ、コナラ、クヌギ、アハマキ、ヤマサクラなどの多様な樹種の生育を促すとともに、少ない場所では植栽する</li> <li>・施工後 3～8 年は、必要に応じて補植や下刈りを行い、その後は自然淘汰に委ね、人の手はなるべく入れずに多様な植生の生育を期待する</li> </ul>

### 3 実行への手順と役割

#### 3-1 整備構想の実現に向けて（実行のシステム）

事業の実行は、森林所有者への説明から始め、賛同いただける所有者と協働して、協議会が設けたワーキンググループによって実施計画を作成し、関係者が詳細を協議して実施します。

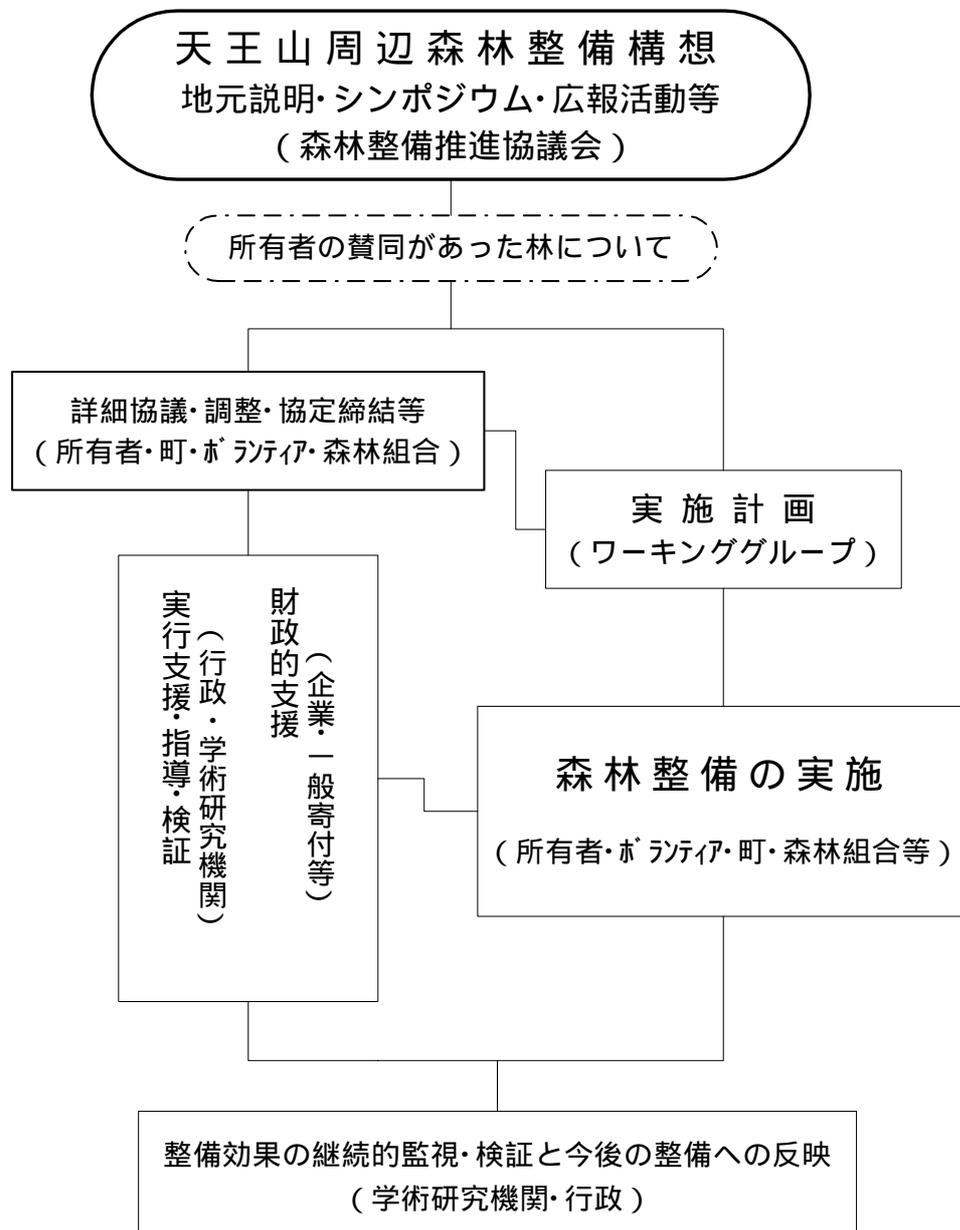
具体的な実行形態としては、

所有者が実行する

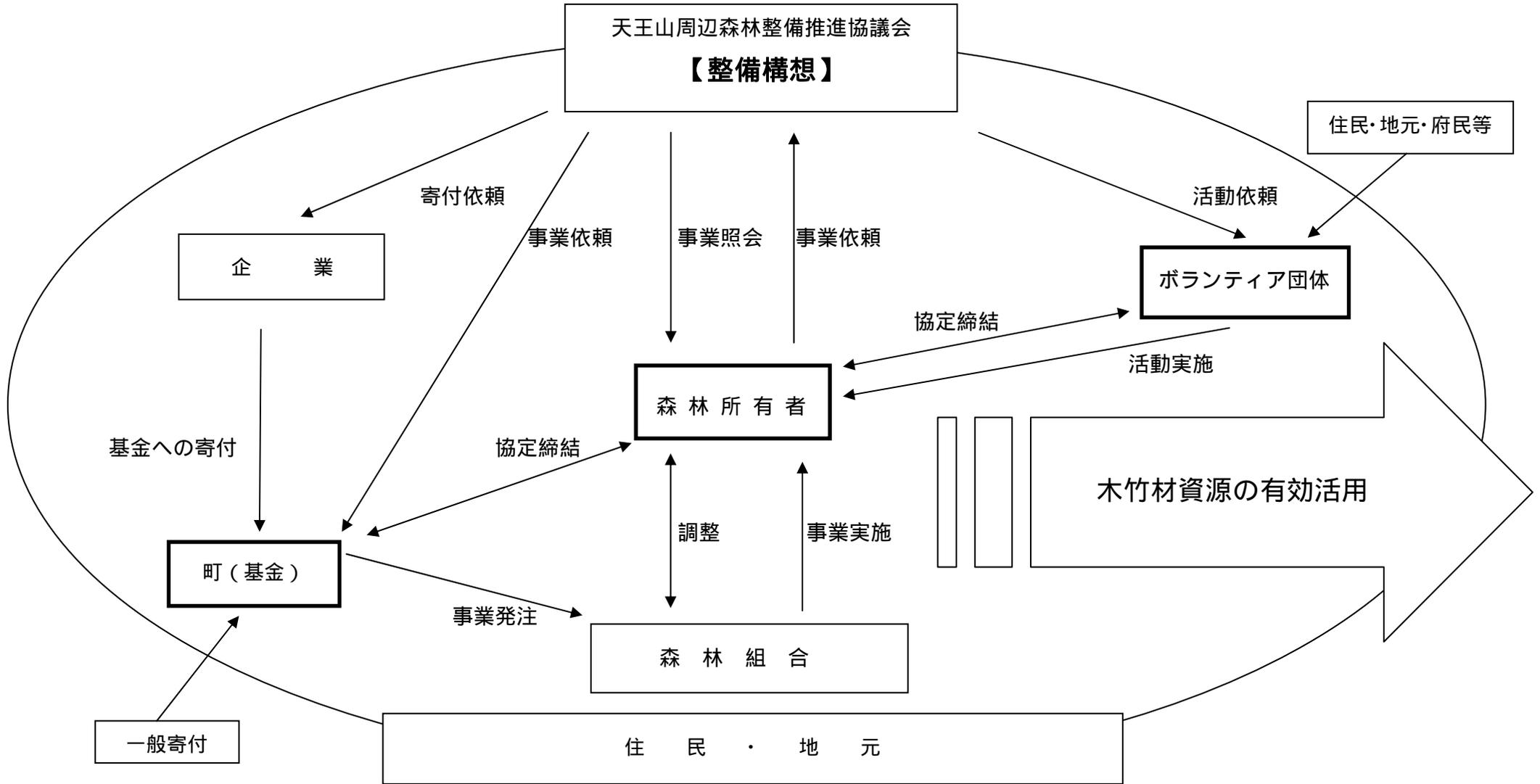
所有者の同意のもと、ボランティアが実行する

所有者の同意のもと、町・企業などが、森林組合などへ委託し実行する

・・・などが考えられます。



# 天王山周辺森林整備フロー図



3-2 関係主体の役割分担

主体	役割	主体	役割
協議会	森林整備構想の作成 森林整備の推進にかかる総合調整 啓発活動 森林整備事業の取りまとめ 森林資源の利活用の検討	企業	事業資金の町基金への寄付 企業がボランティア活動の実施
		ボランティア団体	構想に沿った森林整備の実施 一般参加ボランティアの指導
町	事業実施に係る協議会の事務局 広報活動 企業等からの基金への寄付受入 森林整備事業の実施（森林組合等に委託） ボランティアの育成	森林組合	森林所有者への説明・協力要請・事業調整 構想に沿った森林整備の実施（町等から受託） ボランティアへの森林整備の技術指導
		住民・地元・府民等	森林整備への協力・支援 事業資金の町基金への寄付
森林所有者	構想に沿った森林整備の実施（自ら行う場合） 森林整備への協力 タノ、伐採木等の提供		
府	協議会の事務局 構想に沿った森林整備の実施（府営事業を行う場合） 森林整備への支援	学術研究機関等	森林整備の監視、検証、助言